

自分たちのまちは、自分たちで守る

第15回 高山市消防団 清見支団 消防操法大会

5月26日(日) 小鳥グラウンド



雲一つない晴天の下、「第15回 高山市消防団 清見支団消防操法大会」が行われました。当大会は消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的とし、ポンプ・ホースなどの操作を迅速でかつ正確に行うとともに、団員の動きの美しさを競います。



当日の出動人員は139人。団員の皆さんは連日連夜の練習を重ね、本番を迎えました。この大会は「岐阜県消防操法大会実施要領」に基づいた団員の行動や動作全般、有効放水までの所要時間等、高山市消防指導員や消防署清見出張所署員など17人の審査員により審査され、順位が決まります。「ポンプ車操法の部」「小型ポンプ操法の部」の2部門を8つの班で競いました。尚、結果は下記の通りです。

6月16日(日)、ポンプ車操法の部で優勝した第4分団所属の6人の皆さんは、清見支団の代表として、丹生川町の飛騨エアパークにて行われる「第15回 高山市消防操法大会」に出場します。上下小鳥～池本在住のフレッシュな若者を中心とする第4分団。地域の皆さんのより一層の応援をお願いします。また8月4日(日)には同飛騨エアパークにて「消防感謝祭」第68回岐阜県消防操法大会が開催されます。高山市にて県の消防操法大会が開催されるのは平成元年の第38回以来31年ぶりとなります。こちらの大会も地域一体で盛り上げていきましょう！

結果

【ポンプ車操法の部】	
優勝	第4分団
2位	第2分団第1班
【小型ポンプ操法の部】	
優勝	第2分団第1班
2位	第3分団
3位	第2分団第3班

「いただいた2時間くらいかな。昔の人は機械もなく、全部手作業で田植えをしていたから大変だっただろうね。」と答えました。子どもたちは、この田植え体験によって労働の大変さや尊厳を学びました。今後、9月の稲刈りまで、定期的に田んぼを訪れ、イネの成長を観察します。10月には、収穫したイネを脱穀。そして12月初旬には杵と臼で餅をつき、全校にふるまう「収穫祭」を行います。



この日は待ちに待っていたわくわく教室での遠足の日！ 集合場所のきよみ館駐車場からバスに乗り、高山駅へ。みんなで汽車に乗りました。

清見町まち協だより

第51号
令和元年6月1日
清見町
まちづくり協議会
事務所：きよみ館
TEL 77-9516(直通)

あいさつで つながる地域 咲く笑顔

清見小学校 6年生 丸山 翠月



清見小学校5年生の 田んぼ体験学習



5月20日(月)、塩谷敏雄さん(三日町)所有の水田にて、元気いっぱい清見小5年生23人が総合的な学習の一環として田植えを体験しました。塩谷さんのご家族やJA青年部の加藤大輔さん、榮和也さんなど、地域のみなさんにもお手伝いして頂きました。稲の植え付けの説明を受けた後、子どもたちは裸足になり、ぬかるみに足を取られ転びそうになりながらも、笑顔で田植えに励む子どもたちの姿が見られました。清水口琉穂さんが「機械を使って田植えをしたら、どれくらい時間がかかりませんか?」と質問すると、塩谷さんは「だいたい2時間くらいかな。昔の人は機械もなく、全部手作業で田植えをしていたから大変だっただろうね。」と答えました。子どもたちは、この田植え体験によって労働の大変さや尊厳を学びました。今後、9月の稲刈りまで、定期的に田んぼを訪れ、イネの成長を観察します。10月には、収穫したイネを脱穀。そして12月初旬には杵と臼で餅をつき、全校にふるまう「収穫祭」を行います。

家庭の日は6月16日(日)です

わくわくつうしん

5月9日(木) 飛騨市へおでかけ
この日は待ちに待っていたわくわく教室での遠足の日！ 集合場所のきよみ館駐車場からバスに乗り、高山駅へ。みんなで汽車に乗りました。



わくわくのおともだちは窓から見える景色に大はしゃぎ！そして飛騨古川駅に到着！古川の町や瀬戸川沿いの白壁土蔵街などをそぞろ歩き。起し太鼓会館前の広場でみんなでお弁当を食べたあと、瀬戸川の鯉にエサをあげました。とても楽しかったね！

また安永時代の飛騨国中神社記には木像一、社殿3、4尺(約1メートル前後)、拜殿2、3間(約3、5メートル)、除地2町20歩(約6000坪)と記されている。この頃までは神社の体面を保っていたようであるが、その後社殿腐朽し、天明および天保の飢饉等により村は疲弊して社殿再建の機運も空しく、かくては神の威厳を損なう恐れがありとし、一本杉白山社(八軒町)に移された。以来三ツ谷では祭祀中絶し数年を経たのであるが、嘉永元年(1848年)村人合議の上産土神を他神社に奉斎することは神慮に反するとし、社殿を修復して奉還したのである。当社は明治4年(1871年)9月に村社、大正12年(1923年)には会計規定適用神社に指定されている。参考文献「清見村誌」より

起りうる災害命と地域を守るために... 第1回 防災対応促進委員会
5月23日(木)、きよみ館211会議室にて、第1回清見地区防災対応促進委員会を開催しました。近年、清見町では甚大な災害が6回、立て続けに発生しています。当委員会は有事の際にすぐに対応できるように体制を整備するために昨年11月に発足しました。この日は委員長の中村直人まち協会長、自主防災組織代表の新谷孝一さんなど委員の皆さん28人が出席しました。協議事項に入る前、委員会のオブザーバーを務める高山市民防災研究会の岩茸伸一事務局長より、自主防災における事前対策の必要性について、アドバイスをいただきました。昨年の10月、清見町全体で、防災アンケートを実施しました。その集計結果により、地域の自主防災体制が不十分であり、防災環境を整えることが急務であると判明しました。当委員会では地域の皆さんから頂いた貴重なご意見を参考にし、より一層安全・安心な清見町を目指して、各町内会単位での防災機器の購入・配備、防災機器の使用講習会、防災講習会などを計画しております。町民の皆さんのご参加・ご協力をお願いいたします。



小鳥峠の電柵設置と遊歩道の整備作業
4月28日(土)、水芭蕉(市の天然記念物指定)やサゼンソウなどが生息する小鳥峠温泉植物群落地にて、イノシシ等害獣の侵入を防ぐための電柵を設置しました。ゴールデンウィークの初日にもかかわらず、文化財委員及び町内会の20人の皆さんにご協力いただきました。また倒木によって崩落した遊歩道の修理も同時に行いました。清見町の花の名所としても名高い当群落地。5月初旬には水芭蕉が開花し、多くの人々の目を惹きつけています。

きよみ歴史探訪 清見の神社シリーズ⑥三ツ谷白山神社
三ツ谷白山神社の正確な勧請の年は明らかになっていないが、元久3年(1206年)から三ツ谷一念佛が開基された文龜元年(1501年)の間であると言われている。荘園制度に綻びがみられた室町時代、飛騨地方に白山社が多く勧請されたといわれ、郡上・長滝寺は荘園の確保の手段として白山勢力を拡大した。この観点からすれば当社の勧請はおそらく14世紀末より15世紀に至る約100年の間ではないかと思われる。一念寺が開基される前、三ツ谷には白山大権現の別当寺として天台宗系の寺院があったとされている。一念寺日記には「下村に寺ヶ洞と申すあり(中垣内家の裏)昔小庵これありと申す。また中村に古寺というあり、これらは古き事にて種々古えを尋ね候へども一向わかり申さずまことに真言天台宗の時分と相みえみの国長滝寺下の内の事と察し申し候」とある。古寺跡というのは神社の西方50メートルの地点で、今は部落の共同墓地になっている。また付近には数基の五輪墓が見られる。しかしこのような別当寺も一念寺の開基時にはすでに廃絶していたようである。元禄水帳には白山権現宮除地として二町二十歩と記載、また「飛騨国中案内(上村木曾右衛門満義著)」には「白山権現宮此境内二町二十歩あり、この森には能き杉立の大木十多く有之候」と記されている。

